
 学 会 記 事

第 35 回新潟糖尿病談話会

日 時 平成 18 年 2 月 25 日 (土)
午後 1 時 40 分～6 時
会 場 新潟東急イン 3 階 華の間

I. 一 般 演 題

1 インスリン注射針ペンニードル 32G テーパーの使用感の調査と検討

永野裕美子・鈴木 克典*・岡畑 恵子
西山 陽子
済生会新潟第二病院内科外来糖尿病
チーム看護部
同 内科*

近年、糖尿病患者の増加に伴い、ますますインスリン療法の需要が高まっているが、新たにインスリンを導入する場合に注射の痛みというのが大きい障害になる場合がある。この痛みの軽減するために注射器も次第に改良されてきており、最近では従来のペンニードル 31 ゲージ (31G) に改善を加えた細いペンニードル 32 ゲージテーパー (32GT) のペン専用注射針が発売された。今回、当院でペン専用注射針の 31G から新しい 32GT に変更後の、患者の使用感をアンケート調査し、検討した。当院の糖尿病外来で 3 ヶ月以上 31G を使用している 108 名。〔男/女 = (63/45), 平均年齢 50.1 歳, 平均注射回数 2.41 回〕

注射針を刺すときの「痛み」, 「スムーズさ」で約 60 % が 32GT のほうが良いと答えており, 「注入時の痛み」, 「抜いた後の皮膚からの漏れ」, 「抜いた後の針先からの漏れ」, 「注入時の抵抗」ではどちらでも良いが多かった。以上から総合的評価では 32GT を使用したいという意見が多かった。

2 適正な薬物療法導入のための教育ツールの開発

片桐 歩・青木 祥子・佐藤 宏
八幡 和明*
厚生連長岡中央総合病院薬剤部
同 内科*

安全にインスリン治療を行う為には、病態にあわせて適切なインスリンを選択する必要がある。そのためにも血糖動向とインスリンの作用動態を関連させて理解することが重要であり、治療にあたる糖尿病専門医だけでなく、専門以外の医師や研修医ならびにコメディカルスタッフ、さらには患者さんにとってわかりやすい資材の提供が望まれている。

そこで我々はインスリンの作用動態モデルの考えを採用した、わかりやすい指導用パンフレットを作成、さらに、患者さんの血糖動向に重ね合わせていくシュミレーション方式のツールも作成した。このようなビジュアル的なツールを用いた説明は、様々な種類のインスリン、それぞれの作用の特徴を把握でき、その作用をわかりやすく理解できる資材として有用と考える、今後は、インスリン単位設定のシュミレーションも可能となるようバージョンアップ中である。

3 糖尿病療養指導における災害対策マニュアル — 中越地震を体験して —

丸山 順子・岩崎 佳子
新潟県糖尿病療養指導士ネットワーク会
中越地区

2004 年は 7. 13 水害、10 月 23 日に中越地震と災害が続き、多くの糖尿病患者が何らかの被害を受けた。中越地震後、糖尿病患者にアンケート調査を行った結果、様々な問題が生じコントロール状態に影響を与えたことが明らかとなった。この結果から、災害時における患者指導が不十分であったことがわかり、今後も起こりうる災害に対し、日頃の療養指導の中に災害時の対応についての指導を取り入れてゆく必要があると考え中越地区の糖尿病療養指導士ネットワーク会での研修会にお